



たのではないのでしょうか。わたしにとっても同じことで、ホストファミリーとの出会い、そして生徒たちとともに過ごしたフッドリバーでの思い出が私の財産になりました。マウント・フッドでのスキー、全員の協力で成功する事ができたビンズリースホカ、たくさんの場面で生徒たちの笑顔を見ることができて、とても嬉しく思います。

最後に、この親善訪問を終えて一回り成長した生徒たちは、この貴重な体験をさせていただいた中野町長をはじめ、お世話になったたくさんの方々、向こうで生活をサポートしていただいた熊谷さん、そしてフッドリバーへ快く送り出してくれた家族への感謝の気持ちを忘れずに、この経験を自分のプラスにしていってほしいと思います。

第24回 中学生大使派遣事業

フッドリバー訪問記

2008/3/13 ～ 3/23

第24回中学生大使10人が、3月13日から11日間の日程で、姉妹都市の米国オレゴン州フッドリバーを訪問してきました。

生徒たちは国や言葉の違いを簡単に乗り越えて、はるか1万キロ離れた大地で友情をはぐくみ、多くの大切なことを学ぶと共に、忘れられないたくさんの思い出を作りました。

今回のフッドリバー市との親善訪問団に参加した全員が勉強にも遊びにもたくさんの方に意欲的に挑戦し、また、ツルタパークでの桜記念植樹やレイ・ヤスィ氏、エイコ・タグマ氏の墓参りなどの中学生大使としての役目もしっかりと果たしてきました。

中学校への登校日には、皆がチャレンジ精神を持って授業に取り組み、交流する生徒たちの一生懸命な姿を見ることができました。小学校訪問では、箸の使い方を教えたり、名前を漢字で書いてあげたりと、日



人生のプラスに

鶴田中学校引率教師

石黒 大登

本文化についてそれぞれ自分なりに努力しながら伝えていた様子でした。

生徒たちにとって、今回の「旅の財産」は何だったのでしょうか。心に残る素敵な思い出は人それぞれたくさんあっても、共通して言えるのは、きっとホームステイでの体験ではないかと思っています。鶴田、そして自分の家族と離れアメリカの家庭に入ってしまった、食生活や習慣、文化などたくさんの体験が、自分の世界観、自分の視野を大きく広げてくれ

初のアメリカ



長内 大輔

学んだ事は大きく分けて二つあります。一つ目は、まず文化の違いです。アメリカでは日本と違いほとんどゴミの分別をしません！これも一つの文化の違いだと思います。二つ目は、言葉が伝わらなくても心は通じ合えるという事です。僕ははっきり言って向こうが何を言っているのかあまり分かりませんでしたが、しかし、



ジェスチャーや顔の表情などでも会話ができたし、本当に通じ合えたと思います。

フッドリバーに行つて



瓜田 佑也

アメリカで最初に入国手続きをしました。何を言っているのかよく分からなかったけど、なんとか済ますことができ、バスに乗ってルイス&クラーク大学に行きました。大学では、木立先生がいろいろな話をしてくれ、その後、歓迎パーティーがありました。パーティーでは本場のハンバーガーをたくさん食べました。フッドリバーに行つて本当に楽しかったし、良かったと思つています。



もう一つの僕の町



吉川 潤

八日目は、小学校に行き子どもたちに漢字で名前を書いてあげ、箸の持ち方を教えてあげたりして大変でした。その後はツルタパークで桜記念植樹をし、フッドリバーのダウンタウンを視察して、買い物などして楽しみました。その夜はさよなら



パーティーがありました。この九日間で、フッドリバーは、もう一つのぼくの大切な町になりました。

フッドリバーを訪問して

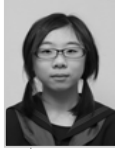


中村 博志

僕はアメリカでホームステイをしてみて、生活や文化、言語などが全く違って、とても大変でしたが、食べ物や飲み物、ファッションなどは、アメリカからきたものが思つていたよりも多かったのでも、とても良い経験になりました。



Smile



中田 里奈穂

ホームステイで学んだことは、いつでも優しく迎えてくれるパパ、ママ、デビンの笑顔の大切さ。笑顔は言葉で通じ合うことのできない何かを伝えることができるような気がします。わたしはホームステイ中その笑顔に何度も救われました。笑顔は万国共通語だと確信しました。わたしは、この先いろいろな苦しい事悲しい事に



直面しても、笑顔で人と接することのできる人でありたいと思います。

太平洋を越えて



永澤 廣知

英語にも造語というものがあるということが分かりました。その一つが「ガマチー」です。英語にすると「Imagination イマジネーション」つまり想像するという意味です。僕らのホストファミリーは「想像以上にスゴイ」と言いたいとき「ガマチー」と言います。僕も日本で使ってみようと思う単語です。この力をさらに伸ばしていき、太平洋を越えて世界に通用するような力に伸ばしていきたいと思つています。このような体験をする事ができたのも親のおかげです。親への感謝の気持ちも絶対に忘れないようにします。



フッドリバーに行つて



鈴木 詩奈子

わたしは小さい頃からずっとフッドリバーに行きたかったので、行けることになった時はとても楽しみでした。でも「私の英語が通じるのか」などの不安や心配もその分大きかったです。初めてホストファミリーと会ったときは緊張しました。ホスト

ファミリーの方はバレーボールに連れて行ってくれました。とても楽しかった。さまざまな事を学んだこの地にまたいつか行きたいです。

フッドリバーを訪問して



太田 美沙

フッドリバーに着いてからは、市民の方々が、わたしたちのためにウェルカムパーティーを開いてくださり、わたしはそこで、英語でスピーチをしました。緊張はしたものの「わたしたちを迎えてくださり、ありがとう」とうまく伝えることができました。また、ホストファミリーも、とても温かく迎え入れてくれました。ホストファミリーは、わたしたちに本当の家族のように接してくれたので、とてもうれしかったです。



Do you want to play はやぶさ?



大角 芽

ホストファミリーとは、毎日ほとんど同じようなことをしています。

た。トランプや折り紙をしたり、テレビを見たり、ゲームをしたりしました。トランプをやった時「スピード」というのをやっていました。そのゲームは、日本でいう「はやぶさ」に似ていたので、はやぶさを教えた、とても喜んでいました。フッドリバーに行つて覚えた言葉は、「same (同じ)」と「old maid (ババ抜き)」です。ホストファミリーが教えてくれました。



初めての海外



藤田 悠平

ぼくはフッドリバーに行つていろいろな事を学びました。飛行機に乗り八時間という時間をかけアメリカにいき、飛行機から見たアメリカの第一印象は木が多かったです。ぼくのホストファミリーは四人家族でみんな優しく、さよならパーティーでは僕たちが企画したビンズリレをやり、意外と盛り上がったので嬉しかったです。一生忘れたい思い出になりました。この体験をさせてくれた多くの方々に感謝したいと思います。

